

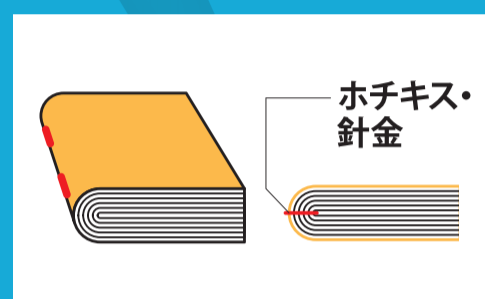
綴じの種類

表紙と本文を合わせて指定の寸法に断裁する並製本は、製本における工程をシンプルにすることによって、短時間で大量に、

かつコストを抑えて製本することができます。接着剤や針金、糸、リングで綴じられ、綴じ方によって以下のように分類されます。

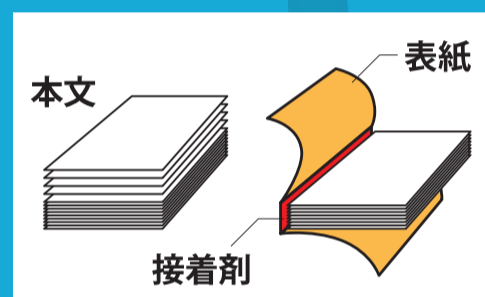
中綴じ

中身（本文）と表紙を2つに折ったものを重ね、真ん中をホチキスや針金で留める方法です。フリーペーパーや週刊誌によく利用されるもので、コストが抑えられる点が魅力です。ページ数の多い冊子には向いていません。



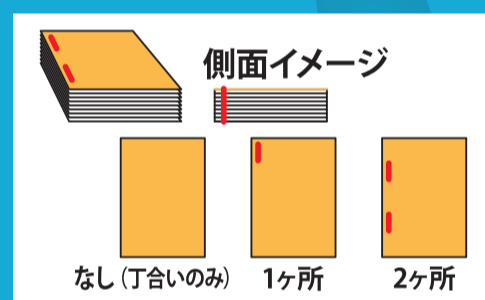
無線綴じ

くるみ製本とも呼ばれ、針金や糸などを一切使わず、背にあたる部分に切り込みを入れてから高温の合成のりで表紙を貼りつける方法です。枚数が多くてもかさばらないので、ページ数が多いカタログやパンフレットなどの冊子を作るのにおすすめです。



平綴じ

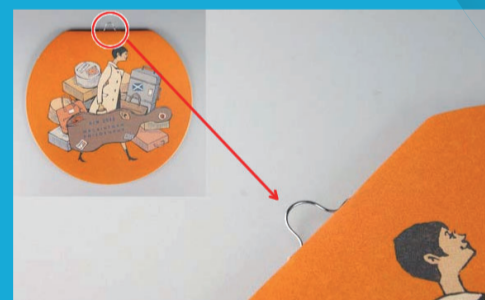
背側を表紙側から裏側にかけて針金で綴じする方法です。ノドいっぱいまでページを開くことができず、綴じ代の分だけ、スペースが狭くなります。簡易的な方法ですが、作りは頑丈なのがメリットです。ページ数の少ないテキストや報告書などの冊子に向いています。



【特殊な綴じ】

アイレット綴じ (NS印刷製本(株))

中綴じの変形したもので、綴じるときに針金が背中部分にC型に飛び出した形になる製本の加工方法です。パンチで穴を開けることがないので、製本の際にデザインを気にする必要がなくとても便利です。ファイルに綴じるための資料や、カレンダー、パンフレットに多く使われます。



井上綴じ (和光堂(株))

両観音折りした折丁を丁合してくるむ製本様式です。二つ折り込みだけを製本する場合、通常はノドに台紙などを差し込まないと小口との厚みの差が倍になって加工が難しいですが、井上綴じにすれば同じ厚みとなり、出来上がりもきれいで加工がしやすくなります。

